

釜ヶ崎講座ニュース No.6 0

2020年7月4日

釜ヶ崎講座

大阪市港郵便局私書箱40号

大阪市西成区萩之茶屋1-9-7

釜ヶ崎日雇労働組合気付

事務局 090-2063-7704

Mail kamakouza@cwo2.bai.ne.jp

<http://cwo2.bai.ne.jp/kamakouza>

郵便振替 00940-1-132778

会員、読者の皆さん、新型コロナウイルス感染症の影響で、3月7日に予定しておりました、第16回講座学習会は中止（延期させていただきました。大変ご迷惑をおかけいたしました。8月8日に再開開催いたします。釜ヶ崎講座へのカンパ、その他でのご支援、ご協力大変ありがとうございました。今後も釜ヶ崎講座として、役割を十分果たせるべくがんばりますので、皆様の変わらぬご支援宜しくお願いいたします。

1、8. 8 第16回釜ヶ崎講座学習会開催

「性的少数者について」

～にじいろ家族に込めた思いと共に～

3月7日、予定していた学習会延期いたしました。8月8日に再開します。

西成でも幅広く活躍されている(株)にじいろ家族の梅田政宏さんを話題提供者としてお招きします。「LGBT（レズビアン・ゲイ・バイセクシュアル・トラ

ンスジェンダーの頭文字をとった略称)とは何か」をベースにしながら梅田さんに語っていただきます。「LGBT」は昨今、世間の誤解・偏見の中で認知を獲得しつつ、国民的関心事・課題になりつつあると考えます。性的少数者、性同一障がいを中心とする問題認識を深め、釜ヶ崎からの発信の1つの柱である共生社会の実現とは何かを皆さんと一緒に考えてみることにしました。梅田さんの主宰する「にじいろ家族」は近年、釜ヶ崎でその行動と主張を夏祭り、越冬闘争を軸に実行委員会に賛同・結集しながら進めておられます。釜ヶ崎はご自分たちにとって大変活動しやすい場所と言っておられます。その梅田さんとの関わりで、私達釜ヶ崎講座代表の渡邊が数年前から今回の学習会の実現を提起し、今日実現することになりました。皆さんの来場をお待ちしております。

話題提供者： 梅田政宏 (株) にじいろ家族

開催日時： 2020年8月8日(土) PM6時30分開演

会場： 太子福祉館(西成区太子1-4-2太子中央ビル3階)

JR新今宮駅東口徒歩2分、地下鉄動物園前駅6番出口から徒歩1分。
堺筋沿いに信号を渡って南側へ渡ってすぐ右手

資料代： 500円

※前回ご案内の際、「西成プラザ」と記載しましたが、同会場は、対外的な開催時は「太子福祉館」となっていることだそうです。

※コロナ対応として、マスク着用、検温、食事禁止で行います。また人数制限を行う場合があります事ご了承ください。

2、第49回釜ヶ崎夏祭り

コロナ対応で、今回の夏祭りは、地域対象に、縮小した規模で行われる予定です。15日の慰霊祭を中心に、報告会、相談会、炊き出しなどが行われる予定です。詳細は、支援機構、組合のHPやFBをご覧ください

① 特掃体験ツアー

8月13日(木) AM7時30分 釜ヶ崎日雇組合事務所集合

※長袖、しっかりした靴、熱中症対応でお越してください。

※事前申し込みしていただくと準備の都合上幸いです。

② 釜ヶ崎講座釜ツアー

8月15日(土) 午前12時半 組合事務所集合

※事前申し込みは必要ありません。

※資料代として500円

3、第51回釜ヶ崎メーデーが行われました。

5月1日・午前10時から、「第51回釜ヶ崎メーデー」が三角公園で行なわれ、約200名が参加しました。講座も参加し、連帯のあいさつを行いました。

メーデー集会は、新型コロナウイルス感染防止のため密集しない形で行なわれ、1970年来の釜メーデーの意義を確認しつつ、コロナ災禍での現下の闘いを意志一致しました。恒例のカンパイを行ない、弁当が配布されて昼前に閉会し、メーデーデモは今回に限って中止されました。

釜ヶ崎日雇労組も参加する釜ヶ崎反失業連絡会はこの日、コロナ対策、特定給付金、センター建替えの3課題で、8項目の要望書を大阪市に提出しました。

特掃、シェルターなどでの緊急要求とともに、「10万円給付金」についても、それが野宿の仲間すべてに行き渡るようにさせなければならぬとして、厚生労働省社会援護局の4・28連絡「ホームレス等の実情を踏まえた支援」の文言を守らせ、自治体窓口にしっかりと実行させねばならない取り組みを追及しています。

4、釜ヶ崎における新型コロナウイルス感染拡大防止のための地域ぐるみの緊急対応と講座の取り組み

新型コロナウイルスの感染拡大が釜ヶ崎を直撃しました。釜ヶ崎は結核罹患率において全国に比べ31倍にも及びます。劣悪な健康・栄養状態、住宅環境等感染症に対して最もリスクの高い地域です。ホームレス状態で生活する高齢者や

不安定就労者が集中し、人口の密集する釜ヶ崎での感染拡大防止のための対応が迫られました。新型コロナウイルスの感染拡大の事態の中で、釜ヶ崎では特に、命綱として生活の糧となる「特別清掃」と、住居のない人のシェルター、居場所が問題となりました。NPO 釜ヶ崎支援機構では、労安衛法に基づく安全衛生委員会を中心に2月段階から「感染予防対策」の基本計画が検討されてきました。生活確保のため特掃事業の堅持と住居を持たない人のシェルターの確保を守り切ることです。現場には、地域の協力する黒川診療所の医師により「新型コロナ対策シリーズ」というわかりやすい解説と予防や健康維持のためのチラシが5版まで作られ、特掃やシェルター利用者が読めるような配布が行われました。対策の中心は発熱者に対する対応といわゆる三蜜状態の防止です。

特掃、シェルター、居場所で利用者の検温の実施を始められました。発熱者は排除するのではなく、特掃では当日は待機の措置とし、発熱者は大阪社会医療センターとの協力で対応を確保し、診療終了後はシェルターに緊急の宿泊スペースが確保されました。また対応のための宿舍の確保も支援機構の自前で用意されました。特掃では就労のための車両での感染を防ぐため、地域外の作業員を

分散させてピストン輸送したり、一部の他の仕事への振り分けが行われ、密度の軽減が図られました。就労や利用時はマスクの着用を義務付け、配布数に限界もある中で、地域の就労支援のNPOの縫製作業所「NPOライフサポート路木」で布マスクの作成が行われ、緊急配布されました。地域では「あいりん手作りマスクプロジェクト」が立ち上げられ、多くのボランティアの手でマスクがつくられ、現場で配布の支援が行われ、6月末で3300枚余りが釜ヶ崎で配布されています。

シェルターは定員532名のところ2月で260名ほどの利用実態でした。シェルターは、98年あいりんセンターの夜間開放闘争などを基礎に、2000年4月に三角公園脇に600名の定員でつくられました。さらに釜ヶ崎反失連の自主運営のシェルターを基礎に、現在の萩之茶屋に440名の第2棟が建てられ、合計1040名のシェルターで多くの野宿者が命を維持してきました。2016年からは現在のシェルターに統合、新築されました。闘いの成果としてあるシェルターではありますが、2段ベッドの施設状態では、ソーシャル・ディスタンスを保ちつつ利用できることにはなりません。適切な利用人数は150-180名ほどです。このため支援機構、反失連等で、生活保護の積極的な活用、施設入所をできるだけ避ける、住宅扶助の単独支給、扶養照会を行わないなどの生保利用の活性の為

の緊急要望、簡宿の借り上げなどの宿舎の確保などの要望を大阪市に対して再三提出されました。4月15日、27日、5月1日代表団が提出行動を行っています。少数ながら確保（発熱者対応に50室、シェルター改善に36室）がされ始め運用されていますが、まだリスクを抱えての運営が続いています。

「緊急事態宣言」以降、ネットカフェの休業要請などがあり、多くの人が宿を追われました。解雇や休業が続く中での雇止めなど多くの困窮者が生まれています。この中で新しい支援活動が模索されています。ビッグイシューでは外出自粛の中での販売減に対して、3ヶ月の緊急の通信販売が4月9日から呼びかけられ、4000件余りが応募され、販売者にひと月5万円の給付が行われました。この鳥雲はさらに3ヶ月延長されています。4月18・19日には「コロナホットライン」が全困の法律家を中心に行われ、70回線に4000件余りの問い合わせ、相談が寄せられました。さらに6月6日に2回目が行われ、さらに続きます。

大阪ではNPO釜ヶ崎支援機構、NPO ホームドアー、NPO ビッグイシュー基金を中心に15団体で「新型コロナ、住まいとくらし緊急サポートプロジェクト」が立ち上げられました。クラウドファンディングとして基金の呼びかけが行われました。釜ヶ崎講座も賛助団体として取り組みました。4月23日・24日には釜ヶ崎を会場として「新型コロナ・くらしとしごと緊急相談会」が行われました。2日間大阪市内に夜回りが行われ、相談会には2日間で36名が訪れた。年齢的には20代から80代にまんべんなくおよび、当日名古屋から来たもの、知人宅、野宿など前日の宿は多様であり不安な状態がうかがえました。相談は総合、仕事、住まい。法律等のブースが設けられ、このような取り組みは、引き続き連休中の5月6日、16日にも行われました。552名の方から目標額の124%に及ぶ715万3480円が寄せられ、この費用で、相談者104名、利用者45名、宿泊数268泊、食支援890食の提供がなされました。

さらに「特別給付金」についてホームレス状態にある人に不安があります。4.28総務省からのホームレス状態の方にも支給されるとの通達はありながら、住民登録、本人確認の証明書類、銀行口座など壁があります。このための地域で福祉などを取り組み団体、個人で緊急相談会が行われています。問い合わせ、書類の取り寄せ、申請の書き方、等地道な相談が重ねられています。

新型コロナは生活困窮者、地域を直撃します。自粛だけでは拡大を予防できません。防衛できません。地域で新たなつながりを作ることも目指し、取り組みが必要です。釜ヶ崎での取り組みは続きます。

講座は5月20日「情報交換会」をふるさとの家で開催しました。講座独自の立場からの取り組みも強化します。

5、新たなクラウドファンディングが始まりました。

<https://readyfor.jp/projects/kamagasaki>

コロナ支援-大阪の未来を支える世代に居住支援を

ほっとかへんで大阪ー仕事と住まいを失くした若い世代を支える
ご協力ください。

<<< 事務局からお知らせ >>>

いつも釜ヶ崎講座へのカンパのご支援、厚く感謝申し上げます。

釜ヶ崎講座の活動はみなさまのカンパにて運営させて頂いております。

振込用紙を同封しておりますので宜しく願いいたします。

以上